

平等な社会を実現するために。
私たちにできることを提案しよう。

～ヤングケアラーの現実～



ココテラス TEAM ココマル

P2~P4 河西 駿輔 Kasai Shunsuke

P1, P8~P10 中原 莓花 Nakahara Ichika

Cover, P5~P7 若尾 愛姫 Wakao Aki

<きっかけ>

【平等な社会を実現するために私たちができること】と聞かれたときに、まず思ったことは、

「私たちと同じ中学生や、それよりも小さな小学生の中で不平等なことがあるのか」ということでした。そこで、インターネットなどを使い調べると、様々なことに関して不平等だと感じている人が、年齢を問わず多くいることがわかりました。

その中でも一番興味を引かれたのは、レポートの題材にした**ヤングケアラー**です。私たち3人は正直なところ、ヤングケアラーについて何一つ知りませんでした。そのため自分たちと同じ年齢、また、近い年齢の人たちが困っている、と知ったときは驚きと同時に**この現状をどうにかしたい**という気持ちが湧いてきました。そこで、私たちは自分たちが通う中学校など、身近なところがどうなっているか調べることにしました。

<ヤングケアラーに関するアンケート結果>

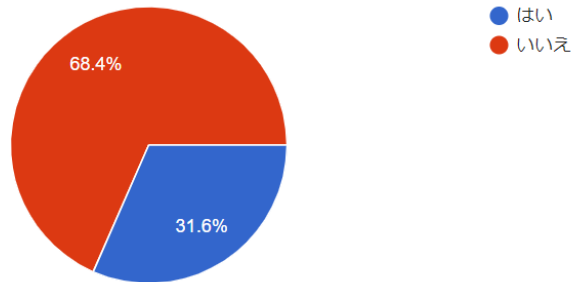
ヤングケアラーに関するアンケートを行いました。

※このアンケートは白根巨摩中学校と櫛形中学校の三年生一クラス（60人）への調査によるものです。

4つの質問に対する結果は次の通りです。

ヤングケアラーを知っていますか？

57件の回答



ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



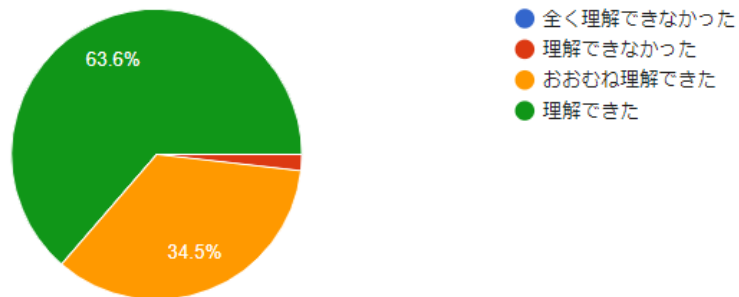
障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : izumi shiga

↑この絵と説明を見せて質問しました。

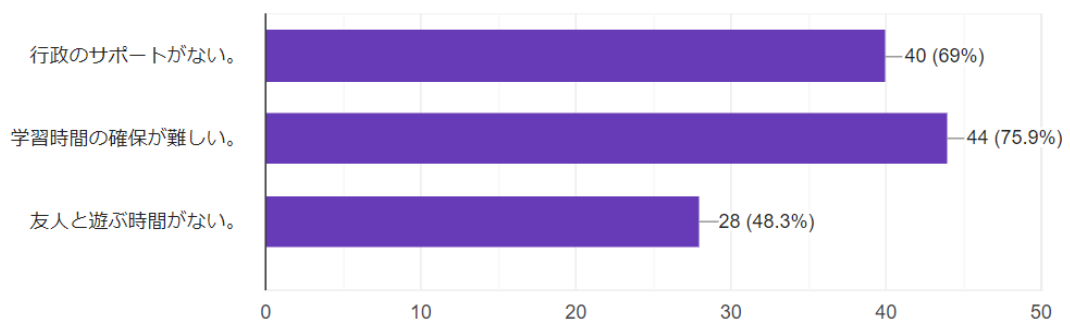
ヤングケアラーについて、理解できましたか？

55 件の回答



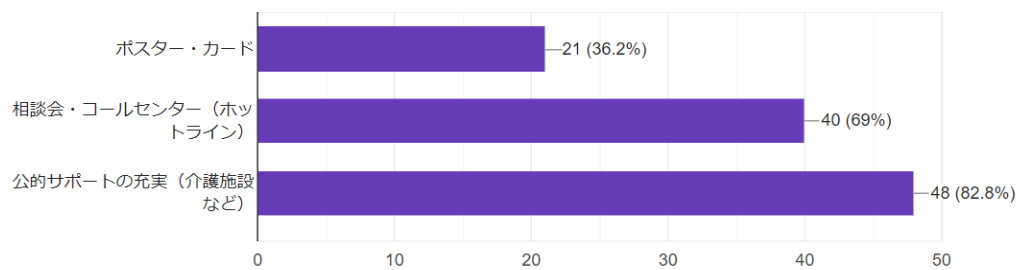
ヤングケアラーは何が問題だと思いますか？（あてはまるもの全て）

58 件の回答



ヤングケアラーの解決方法は何だと思いますか。（あてはまるもの全て）

58 件の回答



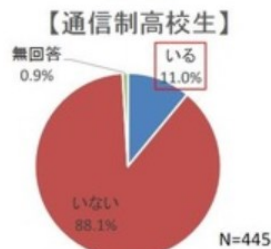
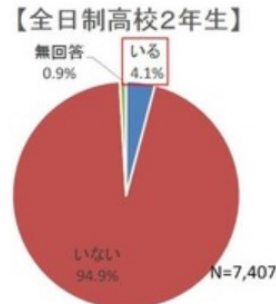
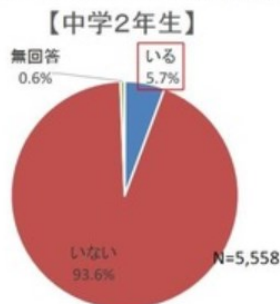
アンケート結果から

ヤングケアラーについて知っているかの質問の結果から、いいえが約七割で、中学生のヤングケアラーの認知度が低いことが分かりました。また、全国の1000校を対象としたアンケート調査でもそのことがわかります。そして、絵と説明を見せると、大半の人が理解できた、おおむね理解できたと回答しています。ヤングケアラーの問題については、学習時間の確保が難しい事や行政のサポートがない事が多かったです。解決方法を聞くと、公的サポート、相談会やコールセンターが特に多かったです。

厚生労働省が公表した調査結果より明らかになった。高校では、全日制 4.1%、定時制 8.5%、通信制 11.0%を占め、ヤングケアラーの自覚や認知度は低い実態にあった。

中高生調査結果①

- 中高生に対し、世話をしている家族の有無について質問。
- 世話をしている家族が「いる」と回答したのは中学2年生で5.7%、全日制高校2年生で4.1%、定時制高校2年生相当で8.5%、通信制高校生で11.0%。



※ 通信制高校生は、年齢を回答した「18歳以下」と「18歳以上」の合計（年齢の区分は無回答であった1名は対象外）、18歳以上は「いた（現在はお世話をしている）」、「現在まで継続してお世話をしている」が「いる」に含まれる。

どのようにすれば理解されるか話し合った結果

アンケートより引用

- ・ ヤングケアラーを実際に体験した人などに話を聞く。

→講演会などの授業を開く。また、ヤングケアラーは18歳未満の子供を指すので、「実際に体験している」の場合だと、本人のプライバシーの問題もあるので、過去に体験をした大人による講演。

- ・ お店などにポスターを貼る。

→夏休みの募集のポスターにヤングケアラーの募集もいれたらいいのではないか。

- ・ 実際に見て体験する

→実際にヤングケアラーになるのは大変なので、介護施設などで介護の大変さを知るなど似た様な環境を体験する。

<提案>

私たちはアンケートの結果から認知度が低い、行政サポートが少ないということが課題だと考えました。そのため、次の2つのことを提案します。

1. 動画などの作成

一つ目の提案は、「動画・CM・特番・広告など、人目によくつく物を利用して認知度を上げる」という方法です。

私たちは、なぜ認知度が低いかと考えたときに

ヤングケアラーについて取り上げているものが少ないなど、目にする機会が少ないことが一番の原因だと考えました。それを解決するために、人目によくつく物を利用したいと思います。

《動画・特番を使う方法》

この方法では、まず特番を作り、それを編集し短くなったものを動画にします。具体的な内容は

- ・ヤングケアラーについての説明
- ・ヤングケアラーの子にインタビュー，その生活を実際に見る

などです。もちろん、しっかりとその子に許可を得た状態かつ、人権が守られている範囲で行います。

《CM・広告を使う方法》

この方法では、テレビ・YouTube・インスタにCMや広告をながします。具体的な内容は

- ・相談窓口への呼びかけ
- ・ヤングケアラーについての簡単な説明

などです。

2. 行政のサポート

二つ目の提案は、「行政のサポートを利用しやすくする」という方法です。ヤングケアラーについて行政の人たちは様々なことを行っています。しかしながら、今の状況ではその情報を得るためにインターネットを利用しなければなりません。そのため、小さな子には行き届かないことが起きる可能性があります。それを防ぐために、相談窓口のQRコードを回覧板に貼ることを提案したいと思います。

<最後に>

このレポート作成を通し、自分たちと同じ年齢の子、
近い年齢の子たちが困っていることを知りました。

私たちが勉強をしているとき、友達と遊んでいるとき。
今のこの一瞬も、日本のどこかで一人で悩み、困っている
人は多くいます。また、世界をみたらその人数は計り知れ
ないほどいるでしょう。

平等な社会を実現する

それは簡単なものではもちろんありませんし、国や市に

任せていたら、いつまで経っても実現しません。本当に
大切なのは、現状をしっかりと知り、理解すること。

そんなことを思い知らされました。